報　告

同窓会および校友会等の友愛組織の学生募集への関与に関する調査研究(1)

－私立大学における状況－

鈴木敏明[1)*]，石井光夫[1)]

1）東北大学高等教育開発推進センター高等教育開発部入試開発室

1．はじめに

高等教育のいわゆるユニバーサル・アクセス化[1)]の進行と18歳人口減少等の影響を受けて，大学・短期大学における学生募集・確保の環境は近年その厳しさを増してきている．程度の差はあるものの，そうした状況は設置区分（国公私立）にかかわらず多くの大学・短期大学において顕在化してきており，特に中小規模の私立大学・短期大学においては極めて深刻となっている．

入学者の量的水準についてみると，平成19年度の入学定員充足率が100%未満（定員割れ）の学校は，私立大学が221校で全体の39.5%，私立短期大学が225校で全体の61.6%であった[2)]．私学の主たる経営原資は学納金と経常費補助金であるため，このような入学者の減少傾向が続くことは多くの私学の経営をまさに直撃することになる．

入学者の質については，質の記述次元をどのように設定するかという問題があるので一律に論ずることは難しいが，高等教育の基礎的資質要件である基盤的学力が十分ではない学生が増加しているとの指摘は各所で聞かれるし[3)]，主体性や目的意識，年齢相応の精神的発達などの面での水準低下あるいは変質も，一般の想像を越えて広がりつつある[4)]．

さらに，こうしたネガティブな変化が，すべての大学･短期大学において一様に現れているわけではなく，要因輻輳の程度に応じた多様なパターンを内包しつつ進行していることが，問題を一層複雑にしている．

近年の様々な高等教育改革の試みにおいては，ここで描き出したような問題状況への対処策を構想することが常に中心的テーマのひとつであったし，入学者選抜の在り方の問題は常にその重要な検討項目として位置づけられてきた．

2．問題と目的

大学入試において平成12年度入試は，しばしば「AO入試元年」という形容句を付して言及される．その年以降，主に私立大学・短期大学を中心に，AO入試が急速に導入されるようになったからである．平成19年度入試におけるAO入試による入学者は，私立大学では39,225人（全入学者の8.2%），私立短期大学では9,182人（全入学者の11.6%）に達しており，既に「入試の３本目の柱」となっている．国公立大学においても－特に最近の後期日程再編の動きの中において－AO入試の普及は目覚ましいが，入学者数および全入学者に占める割合を指標としてみた場合には圧倒的に私学主導の状況である．

AO入試とは，極言すれば，「入試における規制緩和枠である」と定義することができる．文部科学省は，社会的関心の高い大学入試において無用な混乱が生じないよう，毎年度，入試の企画・実施にあたってのガイドラインを関係各機関に通知している．その中では，一般選抜以外の多様な選抜方法の導入を推奨しているくだりにおいて，AO入試の実施にあたっての留意点が次のように示されている[5)]．

①公募制の選抜とすること．

②求める学生像や入学志願者に求める能力・適性等

*）連絡先：980-8576　宮城県仙台市青葉区川内28　東北大学高等教育開発推進センター　高等教育開発部入試開発室

を明確にし，それに応じた選抜方法の工夫・改善に努めること．

③ 学力検査に過度に重点を置いた選抜基準とせず，入学志願者の能力，適性，意欲，関心等を多面的，総合的に評価すること．

この①は，現行の推薦に基づく選抜（推薦入学）のような，志願者の所属学校による統制的関与を出願条件とすべきでないことを述べたものである．②はアドミッションポリシーの明示と，それと整合的な評価・選抜方法の設計を要請したものである．③は評価・選抜にあたっては，一般選抜のような学力指標優位の方法以外の，非学力指標も積極的に組み込んだ方法を採用すべきことを強調したものである．

これらは，基本的には，社会の流動化・多様化という日本社会の根底的流れに大学入試も対応すべきであることを行政として要請したものと理解できるのだが，立場を大学側に置き換えた場合には，前段冒頭で述べたように，従来の主たる選抜区分である一般選抜と推薦入学に課されていた諸条件に縛られない，自由な設計・運用が可能な「規制緩和型の新たな選抜区分の解禁」という理解も成り立つのである．

さて，それでは現在，どのような変化が大学・短期大学入試において起こっているのだろうか．それをひとことで言うならば，「LARGE Admissionから，SMALL Admissionへの移行圧力の増大」ということになる．これは，ひとつには，能力主義と公平性確保の観点から多用されてきた受験学力中心の選抜指標による一括型の選抜（LARGE Admission：一般選抜に代表されるペーパー学力試験による選抜方法）の効用が薄れてきたということである．平成19年度の一般選抜において，私立大学で8,862人，私立短期大学で8,129人の欠員が発生している事実は，その端的な現れといえる．

その改善方策として，従来型の一般選抜の定員枠を縮減し，代わりに推薦入学やAO入試といった相対的に設計・運用上の自由度の大きい選抜区分（SMALL Admission：アドミッションポリシーに準拠した多元的な指標を組み合わせ，積極的な適合性評価を行う選抜方法．結果的に，定員を小分けした複数の選抜区分を導入することになる．それら全体としては一般選抜よりも多くの適合的学生を検出できることにつながるはずであった．前述のAO入試の仕様条件は，そうした選抜方法の設計を容易にするものである）を導入する動きが現れた．AO入試よりも先行して導入された推薦入学による入学者の全入学者に占める割合は，私立大学で41.6%，私立短期大学で68.7%に達している（平成19年度入試）．

こうした流れの中で導入されてきたAO入試は，それ故に，「アイデア競争」とも「百花撩乱」とも，また揶揄的に「何でもあり」とも形容される状況にあり，高校教育の現場に少なからざる当惑・混乱を引き起こしてきたことも事実である．今後しばらくの間，そうしたAO入試の多様化の進行が鈍化するようには思えないし，むしろ，一層の進化・変異を経つつ更なる普及を遂げていくことが予想される．

本研究は，そのような将来予想のひとつとして，個々の私立大学・短期大学における同窓会および校友会等の友愛組織（以下，この用語で統一）が，学生獲得に寄与し得るひとつの資源として，志願者の募集およびAO入試等の入学者選抜のプロセスに組み込まれる可能性について検討しようとするものである．各大学・短期大学が学生募集・確保に関して前述のような厳しい状況に直面していること，および既に従来から一部の私学では推薦入学等の特別選抜枠においてそうした友愛組織が関与する募集および入試を実施してきていることを考え合せるならば，今後AO入試において，友愛組織が関与するタイプの選抜方法が一定程度普及する可能性は高いと考えられる．ただし，そのような選抜方法に対しては，入試に関する明示的，暗示的な社会通念との間でコンフリクトが生ずることが十分に予想できるので，本研究では，そうした問題をも含む関連データを先行して収集し，検討を加える．

なお，このようなテーマ設定は，国公立大学・短期大学については，その設置区分上の制約を考慮するならば，そもそも極めて想定しにくく，該当事例もおそらくは皆無と予想されるので，本研究では，まず私立大学・短期大学に対象を限定して調査・検討を行い，その結果を踏まえて，次の段階として国公立大学・短期大学について検討することとする．

本稿では，そうした研究計画の一部として行われた，

私立大学（学部）における友愛組織の学生募集および入試プロセスへの関与状況についての調査結果について報告する．私立短期大学についての調査結果は稿を改めて報告する．

3．方　法

調査方法としては，郵送により調査票を配布・回収する質問紙調査法を用いた．それらの手続きの詳細は以下のとおりである．

3．1．調査票の構成

調査票で回答を求めた質問項目は，回答者に関する情報を得るためのフェイスシート，学生募集活動および入試関連プロセスへの友愛組織の関与状況を問うＱ１～Ｑ６までの項目で構成されている．詳細は表１のとおりである．

表１　調査項目一覧

質問／回答項目	回答形式	
	選択	記述
フェイスシート		
回答者名	—	○
役職	—	○
連絡先	—	○
Ｑ１．学生募集活動への関与状況		
１．大学説明会への関与状況	○	○
２．個別高校訪問への関与状況	○	○
３．オープンキャンパスへの関与状況	○	○
４．大学案内情報誌やホームページ作成への関与状況	○	○
５．入学志願者の紹介	○	○
６．その他の学生募集活動	○	○
７．学生募集活動への関与はない	○	—
Ｑ２．入試関連プロセスへの友愛組織の関与状況		
１．入学志願者の推薦	○	○
２．入試における面接試験	○	○
３．入試における学力試験	○	○
４．入試における実技試験	○	○
５．合否判定	○	○
６．その他の入試関連プロセス	○	○
７．入試関連プロセスへの関与はない	○	—
Ｑ３．友愛組織が学生募集活動に関与することのメリット	—	○
Ｑ４．友愛組織が学生募集活動に関与することのデメリット	—	○
Ｑ５．友愛組織が入試のプロセスに関与することのメリット	—	○
Ｑ６．友愛組織が入試のプロセスに関与することのデメリット	—	○

Ｑ１は学生募集活動への友愛組織の関与について，Ｑ２は入試関連プロセスへの友愛組織の関与について，それぞれ７つの下位項目から該当するものを重複選択して回答し，選択した項目については簡単な説明を付加することを求めている．フェイスシート，Ｑ１およびＱ２は事実関係を問う質問項目であり，回答者の見解が作用する余地はない．

Ｑ３～Ｑ６の項目は，学生募集活動および入試関連プロセスに友愛組織が関与することに対する回答者の見解を自由記述により求める項目である．そこでは，本調査の性格が友愛組織の学生募集活動および入試プロセスへの関与状況の概要把握を目的とした予備調査的なものであることを踏まえ，できるだけ多くの反応を収集するために，回答にあたってのスタンスは敢えて指定していない．したがって，得られる回答には，大学としての公式見解，担当レベルでの確認事項，現時点での学内議論，担当者の個人的見解など，数種類の表明が混在している可能性があるわけだが，それらは全体として当該テーマに関する大学入試関係者の意見の集合を反映しているものと考え，今回の調査においては，あらかじめそうした反応混在を許容した上で分析を行うこととした．

なお，回答にあたっての負担を軽減するため，調査票の体裁はＡ３サイズ二つ折の１～３ページに質問事項を印刷し，回答欄も１～２行程度のスペースをとることとした．使用した調査票のフォトコピーを末尾に資料として示す．

3．2．調査対象および調査票の送付

平成19年度に学部学生募集を実施している563私立大学を調査対象とし，各大学のアドミッションセンター長および入試委員長等の入試企画・実施責任者宛に，上記調査票を，協力依頼書と調査票返送用封筒を同封の上，2007年12月10日付けで送付した．回答期限は，記入済みの調査票を同封の返信用封筒に封入して，2007年12月25日までに投函するよう要請する形で設定した．また，都合で期限までに回答できない場合でも，回答終了次第返送するよう依頼した．

3．3．調査票の回収状況

本稿では，2007年12月28日現在の到着分を分析対象とする．その時点での回答大学は247大学，大学ベースでの回収率は43.8%である．なお２大学からは，それぞれ２名の回答者から別々に回答があったので，全回答数は249件である．また前項で述べたような回答指示がなされているので，2007年12月28日以降も，連日若干の回答が返送されてきている．それらを含めた最終的な分析結果については，稿を改めて報告することとする．

4．結果と考察

4．1．募集活動への関与状況

学生募集活動への友愛組織の関与状況については264件の選択回答（重複選択可，無答を含む）があった．それらの分布を表２に示す．

表２　学生募集活動への友愛組織の関与（分布）

選　　択　　肢	頻度	全回答数249件に対する割合
１．大学説明会	7	2.8%
２．個別高校訪問	7	2.8%
３．オープンキャンパスの実施	5	2.0%
４．大学案内情報誌やHPの作成	9	3.6%
５．入学志願者の紹介	22	8.8%
６．その他の学生募集活動	28	11.2%
７．友愛組織の関与はない	167	67.1%
８．無答	19	7.6%

「７．友愛組織の関与はない」と「８．無答」を合わせた回答は186件であり，全回答数249件の74.7%を占め，大半の大学においては学生募集活動への友愛組織の関与がないという状況が推察される．

他方，それら以外の選択肢（１～６）に対しては78件の選択反応があった（2.0%から11.2%）．「５．入学志願者の紹介」（22件，8.8%）と「６．その他の学生募集活動」（28件，11.2%）に対しては比較的多くの選択がなされた．それらの項目も含めて，各項目を選択した場合に付加された簡単な補足説明を整理して表３示す．なお，調査を依頼する際に，「ご回答いただいた内容は，すべて統計的な代表値への集約および匿名化処理を施した事例の形で整理しますので，大学名や回答者名等の個別の情報が外部にでることはありません」という誓約をしているので，表３に示された個別の反応は，調査票に記載されたままのものではなく，上記誓約に沿った編集が加えられたものである．以下で順次示される同様の整理表についても同様である．

「５．入学志願者の紹介」への記述回答からは，同窓生の子弟に関する情報提供，有望なスポーツ選手の紹介，高校教員をしている同窓生からの志願見込み者の紹介，系列の宗教関係（寺院）の子弟の紹介といった，かなり踏み込んだ形での友愛組織の関与があることがうかがえる．

「６．その他の募集活動」からは，「５．入学志願者の紹介」よりは一般的なレベルで，友愛組織関連のイベントや広報媒体へ大学・入試情報を入れ込ませる形で協力するといった関与の存在がうかがえる．

表３　学生募集活動への友愛組織の関与（回答例）

１．大学説明会の実施 ・系列高校等の同窓会の集まりで大学を紹介 ・同窓生を説明担当の講師に委嘱
２．個別高校訪問 ・同窓生からの紹介があれば検討した上で訪問することもある ・同窓生に出身高校への訪問を依頼 ・地方の高校訪問の際に，地元の同窓生の紹介・同行の協力を得ている ・退職職員による高校訪問
３．オープンキャンパスの実施 ・参加者の多い会場で同窓会がコーナーを設置 ・在学時の体験談を紹介する企画を担当 ・同窓生の著作物展示コーナーへの出展協力
４．大学案内情報誌やHPの作成 ・大学のHPから同窓会HPへのリンク ・大学のHP作成への協力（コンテンツ作成） ・大学案内冊子に卒後の職場での活躍を紹介する記事を提供
５．入学志願者の紹介 ・同窓生，校友およびそれらの知人の子弟情報の提供 ・運動部の選手の紹介 ・各支部総会で進学情報の提供や個別の進学相談に対応 ・高校教員をしている同窓生からの推薦制度がある ・系列の宗派関係からの推薦制度がある
６．その他の募集活動 ・高校教員をしている同窓生との定期的な交流の場を設定 ・同窓生の演奏会やコンサートの機会を利用した大学紹介 ・同窓会機関誌等への大学・入試情報および大学の広告を掲載 ・地方同窓会開催時に大学案内や募集要項を配布 ・同窓会開催時に同窓生子弟入試制度を説明

4．2．入試関連プロセスへの関与状況

入試関連プロセスへの友愛組織の関与状況については252件の選択回答（重複選択可，無答を含む）があった．それらの分布を表４に示す．

「７．友愛組織の関与はない」と「８．無答」を合わせると226件であり，全回答数249件の90.7%を占める．このことは，ほとんどの大学において，入試関連プロセスへの友愛組織の関与は存在しないということを示す結果である．

それら以外の選択肢（１～６）に対しては合計26件の選択反応があったが，そのほとんどが「１．入学志願者の推薦」（20件，8.0%）であった．各項目を選択した場合に付加された簡単な補足説明を整理して表５に示す．

表４　入試プロセスへの友愛組織の関与（分布）

選　　択　　肢	頻度	全回答数249件に対する割合
１．入学志願者の推薦	20	8.0%
２．入試における面接試験	1	0.4%
３．入試における学力試験	2	0.8%
４．入試における実技試験	0	0.0%
５．合否判定	1	0.4%
６．その他の入試関連プロセス	2	0.8%
７．友愛組織の関与はない	203	81.5%
８．無答	23	9.2%

表５　入試関連プロセスへの友愛組織の関与（回答例）

１．入学志願者の推薦 ・同窓会長推薦 ・同窓会支部長推薦 ・学友会推薦 ・系列高校の同窓生教員からの推薦 ・同窓生子弟・子女推薦入学制度への推薦 ・出願時に同窓生の推薦書を添付できる制度 ・ＡＯ入試の中に同窓生子弟・子女対象の区分を設定 ・系列の宗派関係からの推薦制度
２．入試における面接試験 ・面接試験担当者として参画
３．入試における学力試験 ・学力試験会場の受付，案内，試験監督等 ・地方試験場/サテライト会場における補助
５．合否判定 ・試験得点の集計作業補助
６．その他の入試関連プロセス ・推薦入学合格者に対する入学前学習支援（問題作成や添削で協力）

「１．入学志願者の推薦」への記述回答からは，友愛組織そのもの，個々の同窓生，系列高校に在籍する同窓生教員，系列の宗教関係（寺院）等，いくつかのチャンネルから入学志願者を推薦する制度が導入されていることがうかがえる．今回の調査から推定する限りでは，こうした制度は８%程度の私立大学において導入されている．

また，実際の入試関連プロセスに友愛組織が関与しているケースはほとんどみられないことが明らかとなったが，中には面接試験，学力試験および合否判定の一部に友愛組織が関与しているとの回答も得られた．

４．３．友愛組織が学生募集活動に関与することのメリット

この部分は，友愛組織が学生募集活動に関与することで実現できている，あるいは期待できるメリットについて自由記述での回答を求めた質問項目である（Ｑ３）．

回答欄への記述があったものが109件，無答が140件であった．得られた記述内容を，内容分析の手法を用いて，類同性の観点からいくつかのカテゴリーに分類整理した．それらのカテゴリーの中から構成比が10%を越えるものを抽出し，カテゴリーのタイトルと頻度を表６に，また各カテゴリーの回答例を整理したものを表７に示す．

表６　学生募集活動に関与することのメリット（分布）

選　択　肢	頻度	記述のあった109件に対する割合
１．体験に基づいて伝えられる	40	36.7%
２．特長を的確に伝えられる	38	34.9%
３．熱意と愛着を持って伝えられる	15	13.8%
４．志願者層の開拓につながる	12	11.0%
５．エリアカバー率が上がる	12	11.0%

全体的には，自分の出身大学である故に，学生時代の体験に基づいて，情熱をもってリアルに訴求力のある大学紹介を行えること，卒業生がそれぞれの在住地域において形成・蓄積してきた知見や人的ネットワークを学生募集活動に提供してもらうことで，大学としては力が及ばない部分での補完効果が生じ得ることに対して，現実の効用および期待感が表明されている．このことは，友愛組織と連携することには，こうした面でのメリットがある，あるいは期待できるというこ

とを大学側がはっきりと認識していることの現れといえよう．

表７　学生募集活動に関与することのメリット（回答例）

１．体験に基づいて伝えられる ・出身大学であるため，体験に基づいた詳しい説明をすることができる ・卒業生だからこそ話せる内容を伝えることができる ・体験をとおしての説明なので，わかりやすく伝えることができる ・体験に基づいた情報で信頼性が高い ・卒業生の観点から大学の新たな魅力の提示が期待できる ・卒業生の説明は，信頼感をもって受け止められる ・自らの体験を伝えることで訴求力がアップする ・通り一遍ではない，より魅力的な説明ができる ・学生生活と将来の職業について具体的に説明でき，現実感がある ・大学生活の実体験を伝えることができる ・説明の場に同伴する父母への好影響がある
２．特長を的確に伝えられる ・学生の立場・視点からの情報提供ができる ・大学の良い点・悪い点をはっきりと伝えることができる ・大学の校風・伝統などを伝えることができる ・ユニバーシティ・アイデンティティを正しく伝えることができる ・通常の広報では言及されない特長を伝えることができる
３．熱意と愛着を持って伝えられる ・親身になって相談に対応してもらえる ・募集活動に対する取り組み方が真剣である ・志願者に本学の情報を好意的に伝えてくれる ・母校なので熱心に活動してくれ，地方における人脈が広がる ・大学への「想い」が強く，言葉に力がある ・大学の教員等の情報を，ある程度親近感を持って説明できる
４．志願者の開拓につながる ・大学との信頼関係により，責任のある推薦が得られる ・人脈を利用することで訪問可能な高校数が増加する ・同窓生のネットワークを利用した募集ができる ・学生募集活動先の開拓に力を発揮してくれる ・紹介等による志願者の増加が見込める ・子弟子女入試を行う場合にメリットがある ・特定の地域および高校との関係深化をある程度促進できる ・全国的な志願者紹介のネットワークを張ることができる ・大学では掌握できない地域や，個人ベースでの募集展開が可能となる ・卒業生の住所等のデータベースが入試広報に活用できる ・同窓生の身内などが入学してくれる場合がある ・組織のネットワークを活用し，志願者に接触する機会を増やすことができる
５．エリアカバー率が上がる ・全国各地において学生募集活動が効果的に実施できる ・地方在住者の協力により，ＡＯ入試の拠点ができる可能性がある ・全国各地に同窓生が所在している ・地域の情報に強い ・広域の広報活動に協力してもらえる可能性がある ・支部ネットワークにより全国をカバーできる ・特に地方での募集活動の助けとなる ・地方に友愛組織の支部がある場合，そこでの募集活動に協力してもらえる

４．４．友愛組織が学生募集活動に関与することのデメリット

この部分は，友愛組織が学生募集活動に関与することのデメリットについて自由記述での回答を求めた，前項（Ｑ３）とは対極的な質問項目である（Ｑ４）．

回答欄への記述があったものが93件，無答が156件であった．得られた記述内容を，Ｑ３の場合と同様に内容分析の手法を用いて，意味内容を共有する項目からなるいくつかのカテゴリーに分類整理した．それらのカテゴリーの中から構成比が10%を越えるものを抽出し，カテゴリーのタイトルと頻度を表８に，また「３．デメリットは思い当たらない」（明示的にデメリットの不存在を表明したもので，単なる留保ではない回答）以外の各カテゴリーの回答例を整理したものを表９に示す．

上述のＱ３においてメリットの源として指摘されていたことが，ここではデメリットの生起要因としても捉えられている．すなわち，実際の体験に基づくが故に主観的な要素が強くなり過ぎたり，個人的体験のスコープの狭さが大学全体をバランスよく紹介することの妨げになったりするのではないかという懸念・不満が表明されている．また，どうしても「むかし話」的な紹介となってしまい，組織改編，カリキュラム改革，入試制度の変更など，現在進行形でどんどん変化しつつある「大学の今」を伝えきれないのではないか，という指摘もなされている．さらには，正規の大学職員ではないため，プレゼンテーション内容のバラツキが大きくなるのではないかといった懸念もかなり表明されている．

表８　学生募集活動に関与することのデメリット（分布）

選　択　肢	頻度	記述のあった93件に対する割合
１．情報のアップデートが難しい	27	39.8%
２．個人的体験による偏り	25	26.9%
（３．デメリットは思い当たらない）	14	15.1%
４．伝達内容の統一が難しい	13	14.0%

表９　学生募集活動に関与することのデメリット（回答例）

１．情報のアップデートが難しい ・最新情報を知らなかったり，誤った情報を伝えてしまう ・大学の最新の情報を的確に伝えきれない ・カリキュラムなど，変更されていることを十分に説明できない ・大学の現状全体を把握して伝えることは難しい ・新設学部・学科等，改組による最新の情報が伝わらない ・最新情報とのタイムラグが生じる ・自分が学生だった頃のイメージが強く残っている（昔はこうだった） ・在学中に得た情報は，時に客観性を欠く場合がある ・複雑な入試制度や大学の現状を正確に伝えられるか疑問である ・誤った（もしくは古い）情報を伝達してしまう可能性がある
２．個人的体験による偏り ・大学全体の情報を伝えきれない ・自分の在学時をベースに話してしまう ・過去の栄光，想い出等に引きずられ，前向きな思考をしづらくなる ・在学中のイメージでしか話ができない ・第三者的に母校を見ることができない ・独りよがりの説明に陥る恐れがある ・昔のイメージにとらわれ，大学の変貌を的確に伝えることができない
４．伝達内容の統一が難しい ・日々の業務，情報に密に関わっていないので，考え方等に相違が生じる ・組織化，マニュアル化，趣旨の周知徹底など，かなりの手間がかかる ・連携が十分になされないと，誤った情報が流れる可能性がある ・責任や権限を明確化しないと様々な問題が発生する可能性がある ・大学の意図していない情報まで伝えてしまう可能性がある ・大学の欠点（不備な点）も正直に話してしまうかもしれない ・外部には知られたくない負の部分まで外に出す可能性がある ・担当者により，説明の内容にバラツキがでる ・協力してほしいことと，タッチしてほしくないことの線引きが難しい

４．５．友愛組織が入試プロセスに関与することのメリット

この部分は，友愛組織が入試関連のプロセスに関与することのメリットについて自由記述での回答を求めた質問項目である（Ｑ５）．

回答欄への記述があったものが75件，無答が174件であった．得られた記述内容を，Ｑ３，Ｑ４の場合と同様に内容分析の手法を用いて，意味内容を共有する項目からなるいくつかのカテゴリーに分類整理した．それらのカテゴリーの中から構成比が10%を越えるものを抽出し，各カテゴリーのタイトルと頻度を表10に，また「２．メリットは思い当たらない」（明示的にメリットの不存在を表明したもので，単なる留保ではない回答）以外の２カテゴリーの回答例を整理したものを表11に示す．

表10　入試プロセスに関与することのメリット（分布）

選　択　肢	頻度	記述のあった75件に対する割合
１．適合的学生の確保	34	45.3%
（２．メリットは思い当たらない）	26	34.7%
３．アドミッションポリシーの伝達	12	16.0%

友愛組織が入試関連プロセスに関与することで期待できることは，学風や大学のアイデンティティへの親和性，アドミッションポリシーの理解度，修学継続への意思といった面で確かな学生を確保できる可能性があるということだけのように読み取れる．

なお，このＱ５とデメリットを問う次のＱ６に対する回答からは，入試に関して社会的な批判を受けることに対する警戒的・防衛的ニュアンスを感じさせられた．これは，入試の公正性が社会的関心事であるということを，回答者が強く意識していることを反映したものであろう．

表11　入試プロセスに関与することのメリット（回答例）

１．適合的学生の確保 ・向学心の強いしっかりとした人物を送ってもらえる ・入学後，本人の意思のブレが生じない ・帰属意識の高い学生確保につながる可能性がある ・目的が明確な受験生を推薦いただける ・適性のある学生を募ることができる ・大学に合った，大学で力を伸ばせる学生を迎えることができる ・本学独自の学校文化を継承する人材を選抜することができる ・正規保証人に次ぐ人的担保の効果を見込める ・学風に適合した学生を迎え入れる可能性を高めることができる
３．アドミッションポリシーの伝達 ・同窓生子女の応募であり，アドミッションポリシーを良く理解している ・学風や理念を，あらかじめ十分理解してもらえる

４．６．友愛組織が入試プロセスに関与することのデメリット

この部分は，友愛組織が入試関連のプロセスに関与することのデメリットについて自由記述での回答を求めた質問項目である（Ｑ６）．

回答欄への記述があったものが90件，無答が159件であった．得られた記述内容を，Q3，Q4，Q5の場合と同様に内容分析の手法を用いて，意味内容を共有する項目からなるいくつかのカテゴリーに分類整理した．それらの中から構成比が10%を越える6カテゴリーを抽出し，各タイトルと頻度を表12に，各カテゴリーの回答例を整理したものを表13に示す．

表12　入試プロセスに関与することのデメリット（分布）

選択肢	頻度	記述のあった90件に対する割合
1．公平性・公正性の問題	56	62.2%
2．一切関与させるべきでない	14	15.6%
3．情報管理上の問題	12	13.3%
4．情実や不正の温床となる	12	13.3%
5．各種の過誤・責任の所在	11	12.2%
6．趣旨共有の難しさ	10	11.1%

表13　入試プロセスに関与することのデメリット（回答例）

1．公平性・公正性の問題 ・公平性，公正性，正確性に欠ける ・社会的に見て公平・公正であるべき入試に疑問である ・縁故入試であるとして社会的批判を受ける可能性がある ・関係者が有利に取り扱われると疑われる可能性がある ・合否判定に強く関与されると公平性が崩れる ・公平か？という外部の目に応える明確なものが必要であろう ・公平性について疑義が生じると思われる ・特別枠や入学金免除などは一般の不公平感を生じさせる ・入試合格に関して同窓が有利という偏見を持たれる可能性がある ・具体的な関与は入試の公正さを阻害する ・入学を前提に話をされると，合否判定時に大きな問題となる
2．一切関与させるべきでない ・そもそも関与すべきものではない ・対外的な説明ができないのではないか ・教育とは別次元の発想で，ミッションが崩れる可能性が高い ・友愛組織が入試に関与すること自体が社会通念に反している
3．情報管理上の問題 ・教職員と同様の守秘義務が担保できるだろうか ・選抜に関する機密保持ができなくなる恐れがある ・情報に関しては非常に危険となるので，関与すべきではない ・個人情報等，秘密情報が漏洩する恐れがある
4．情実や不正の温床となる ・情実が入る ・ごり押しされる危険性がある ・面接などでは個人的な感情が入り込む可能性がある
5．各種の過誤・責任の所在 ・トラブル等が発生した場合，責任の所在が不明確になるのではないか ・内部に入るわけなので，通常想定外の無理が生じる可能性がある ・重要な情報の流出や入試業務上のまちがいなどが起こりやすくなる ・入試の手続き上の問題が生じる可能性がある
6．趣旨共有の難しさ ・入試に関する情報等を詳細まで共有することが難しい ・盲目的な募集活動になる恐れがある ・入試のポリシーが曖昧になる ・アドミッションポリシーを的確に理解した上で関与できるか不安がある

得られたカテゴリーは，さらに大きく2つの次元に沿って分類できそうである．第1は，「1．公平性・公正性の問題」と「2．一切関与させるべきでない」の2カテゴリーから構成される「原則論的見解」の次元．第2は，「3．情報管理上の問題」，「4．情実や不正の温床となる」，「5．各種の過誤・責任の所在」および「6．趣旨共有の難しさ」で構成される「技術論的見解」という次元である．ただし，重複回答のパターンを分析してみると，個々の見解の構成においてこの2つの次元は独立して作用しているのではなく，第1次元は偏在的に第2次元は局所的に作用していることがわかる．つまり，ほとんどの見解のベースには第1次元の要素が配分されており，見解によっては第2次元の要素が付加されるということのようである．

以上の結果には，各大学が入試に関して社会的批判を受けることに極度に神経質になっており，たとえ「身内」の友愛組織であったとしても，意思疎通の不十分さや処理の練度不足等に起因する過誤や事故が発生することで社会的指弾が向けられることを恐れており，更に，「身内」であるからこそ，入試に関与させることの対外的説明が難しくなるとの認識も強く持っていることが現われているように思われる．

5．まとめ

本調査研究では，我が国の私立大学における同窓会および学友会等の友愛組織と学生募集活動および入試関連プロセスとの関係を問題とし，友愛組織の学生募集・入試への関与の実態と，そうした関与に対する入試担当者の見解を質問紙法によって調査した．

まず，友愛組織の学生募集活動への関与については，

入学志願者の紹介や友愛組織の有するチャンネルに大学・入試情報を載せるという形での連携協力が私立大学の10%程度で行われていることが明らかとなった.

ただ，友愛組織およびそのメンバーのスタンスが，そもそも大学当局と同一ではないことが，そのような連携協力のメリットもデメリットも生じさせるものであるという逆説的な事実が浮き彫りとなった.

次に，友愛組織の入試関連プロセスへの関与については，圧倒的にメリットよりもデメリットの指摘・表明が優勢であった．ほとんど唯一メリットとして認められ得るのは，友愛組織からの推薦が，適合的な入学志願者確保の確率を高めるかもしれない，という考え方のみであった．集計結果からは約８%の私立大学において，何らかの形で友愛組織が志願者の推薦に関与する選抜が行われていることも読み取れた.

また，デメリットに関する回答者の見解は，「原則論的見解」と「技術論的見解」という２つの次元によって構成されていることが示唆された．さらに，重複回答のパターンの分析から，この２つの次元は回答者が見解を形成する過程に対して独立的に作用するのではなく，第１次元は遍在的に，第２次元は局所的に作用するとの仮説が提起された．これは入試に対する社会的現実構成とも相通ずるものであろう．各大学の入試担当者も入試に対するそうした社会的構えを共有しているが故に，そうした構えの合理性についての判断はさておき，それに対する防衛として，友愛組織を入試プロセスに組み込むことの技術論的検討よりも，何はともあれ外形的な公正性・公平性を確保して社会的指弾を回避することを優先させているのではないか，という解釈が示された.

今後は，今回の結果と，本稿執筆時点では既に実施済みである私立短期大学を対象とした同様の調査の分析結果とを突き合わせ，友愛組織と学生募集・入試との関わりの可能性について，現象をより立体的に解明することを試みたい.

付　記

1．本研究は，先般公表された「井上プラン」[6] において設定されている項目１－(5)「意欲的な学生が受験する入試戦略の展開」の「B　入学者選抜方法の改善」の〔プラン③〕「東北大学同窓会を含めて日本及び世界各地に推薦網を整備する（学部・大学院）」に関連して入試開発室が行った先行的検討の一部である.

2．本報告は，平成19年度高等教育の開発推進に関する調査・研究経費（研究課題名：同窓会等の友愛組織を利用する入学者選抜の可能性についての調査研究．研究組織：鈴木敏明・石井光夫）を得て行われた調査研究結果の一部である.

注記ならびに文献

1）日本高等教育学会.「ユニバーサル化への道」，玉川大学出版部，1999.

2）日本私立大学振興・共済事業団.「平成19年度私立大学・短期大学等入学志願者動向」，月報私学，2007，117：８-９.

3）石井 秀宗，椎名 久美子，前田 忠彦，柳井 晴夫.「大学教員における学生の学力低下意識に影響する諸要因についての検討」，行動計量学，2007，34：67-77.

4）山崖俊子.「育ちの支援としての学生相談－Ａ子さんとの面接を通しての検討」，学生相談研究，2007，27：179-190.

5）文部科学省高等教育局.「平成20年度大学入学者選抜実施要項」，2007.

6）東北大学.「井上プラン2007－世界リーディング・ユニバーシティに向けて－」，６，2007.

同窓会および校友会等の友愛組織の学生募集への関与に関する調査

ご回答いただく方へ

この調査は，最近の大学入試多様化の流れの中において，アドミッションポリシーに適合的な学生を迎え入れるための新たな方法の可能性を探るために実施するものです。

ご回答いただいた内容は，すべて統計的な代表値への集約および匿名化処理を施した事例の形で整理しますので，大学名や回答者名等の個別の情報が外部に出ることはありません。

なお，ご回答いただけない箇所は空白にしていただいて結構です。また，ご不明の点がございましたら，お手数ですが，下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

この調査についてのお問い合わせ先

東北大学高等教育開発推進センター
高等教育開発部・入試開発室
教授・鈴 木 敏 明
MAIL：binmei@mail.tains.tohoku.ac.jp
TEL & FAX：022-795-4813

この調査にご回答いただく方

大学名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 大学

ご役職名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

お名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ご連絡方法　ご回答内容について，改めてご説明をお願いする場合があります

メイルアドレス ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

電話／ファックス ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

以下の Ｑ１～Ｑ６の各質問は，貴学の卒業者や退職職員等によって構成される同窓会および校友会等の友愛組織（名称は問いません。以下「友愛組織」と表記します）と，貴学の学生募集活動および学部入試プロセスとの関係についてお伺いするものです。

該当する項目の選択および空所への記述によってご回答下さい。

Ｑ１．貴学の友愛組織は，以下の学生募集活動に関与していますか？

（関与しているすべての項目番号に○をつけ，その具体的な内容について簡単にご説明下さい）

（記入例）　(1.)大学説明会の実施（講師の派遣。会場の提供。広報への協力）

１．大学説明会の実施（　　）

２．個別高校訪問の実施（　　）

３．オープンキャンパスの実施（　　）

４．大学案内情報誌やＨＰの作成（　　）

５．入学志願者の紹介（　　）

６．その他の学生募集活動（　　）

７．友愛組織の学生募集活動への関与はない

Ｑ２．貴学の友愛組織は，以下の入試関連のプロセスに関与していますか？

（関与しているすべての項目番号に○をつけ，その具体的な内容について簡単にご説明下さい）

（記入例）　(2.)入試における面接試験（面接担当者として協力）

１．入学志願者の推薦（　　）

２．入試における面接試験（　　）

３．入試における学力試験（　　）

４．入試における実技試験（　　）

５．合否判定（　　）

６．その他の入試関連プロセス（　　）

７．友愛組織の入試関連プロセスへの関与はない

Q３．大学の友愛組織が学生募集活動に関与することのメリットはどのようなことだとお考えですか？

（例）　自分の出身大学なので，体験に基づいて詳しく説明することができる。

大学の特長を的確に伝えることができる。

Q４．大学の友愛組織が学生募集活動に関与することのデメリットはどのようなことだとお考えですか？

（例）　自分の出身大学なので，どうしても我田引水的な説明をしてしまう。

大学の最新の情報を的確に伝えきれない。

Q５．大学の友愛組織が入試のプロセスに関与することのメリットはどのようなことだとお考えですか？

（例）　学風やアドミッションポリシーに適合的な学生を迎え入れる可能性を高めることができる。

Q６．大学の友愛組織が入試のプロセスに関与することのデメリットはどのようなことだとお考えですか？

（例）　入試の社会的公平性についての疑義が生じる恐れがある。

以上で質問は終了です。ご協力ありがとうございました。

この質問票は同封の返信用封筒に封入の上 **12 月 25 日（火）**までにご投函下さい。